

WINDS CAFE 277 in 原宿 「同時代音楽を奏する」

“Baroque=尺八古典本曲” 独演会

J.G.Pisendel : Sonata for Solo Violin A minor (1687年)

"打波"

"心月"

-休憩-

J.S.Bach : Sonata for Solo Violin G minor (1685年)

"手向"

"鶴之巣籠"

"鹿之遠音"(Vn×尺八による二重奏版)

●亀井庸州（かめい・ようしゅう）：1982年東京生まれ。ヴァイオリンを5歳、尺八を18歳より始める。

ヴァイオリンにおいては、尺八の開始とほぼ同時期より、同世代作曲家による新曲初演活動を始め、それらをさらに深く勉強するためベルギー王立リエージュ音楽院へ留学。20世紀の音楽や即興演奏を中心に学ぶほか、同音楽院ならびにナミュール古楽音楽祭にて、バロックヴァイオリンを同時に学ぶ。帰国後も、新曲および20世紀以降の作品を中心に、多くの公演に関わっている。

尺八としては、現在も古典本曲の稽古に通う傍、スタジオワークやアレンジ、即興演奏や自作などでの演奏活動を行なっている。

ヴァイオリンを七沢清貴、大久保いずみ、即興演奏をギャレット・リスト、ミッシェルマッソー、尺八を横山勝也、柿堺香の各氏に師事。

●本間豊堂（ほんま・とよたか）：1975年5月8日、東京生まれ。幼少より茶道、箏曲に親しみながら育つ。中央大学「竹桐会」で琴古流尺八を加藤秀和に、生田流箏曲を芦垣美穂に習う。大学卒業後、古典尺八を横山勝也に師事。

現在、東京都八王子市在住。演奏・ライブ活動、尺八教室、学校公演を中心に活動するほか、月刊邦楽ジャーナルに「本間豊堂の尺八徹底音出し実験室」を連載するなど幅広く活躍する。

「竹心会」（横山勝也門下）所属。邦楽創造集団「オーラJ」、和のオーケストラ「むつのを」、ピアノ・尺八・コントラバス・鳴り物による「峯ひろみとマジック・キャラバン」メンバー。日本三曲協会、日本尺八演奏家ネットワーク「JSPN」、全国邦楽合奏協会、西東京三曲の会、小平市三曲協会会員。<http://honmatoyotaka.jp/>